



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

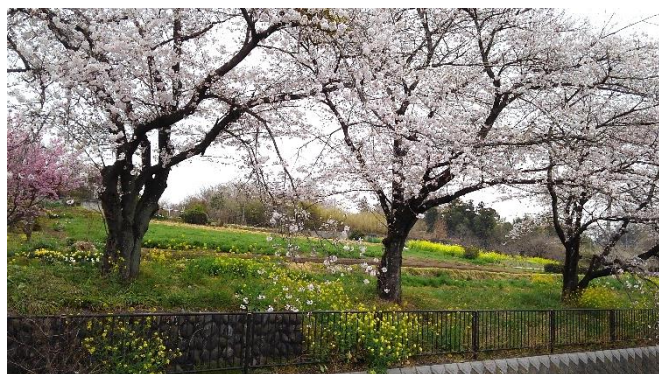
新たなステージへ

2022年2月に予定されていたまちネット寄居総会は、今年度もまん延防止重点措置法のため公共施設が使えなくなり、書面議決のみとなりました。15名の方から書面議決書をいただき、全員賛成で今年度の議案は承認されました。遅くなりましたが、今年度も議案書に沿った方針で活動を継続していきたいと思えます。

とはいえ、2022年度も4月が過ぎようとしています。リアルタイムで話すこともできなくなった2年間は、かなりのストレスとなっています。あちこちから極端に人と接触できなくなったことで「もうだめ、誰かと思いきり話したい!」といった声が聞こえてきます。人の呼吸が、表情が直に見える、感じられるコミュニケーションの大切さを痛感しています。改めてこの2年を振り返ってみて、良い転機と前向きにとらえられる部分はあっても、人と直接話すことの重要性を突きつけられています。

しかし、依然新型コロナ感染は治まる気配はありません。さすがに3年目ともなると感染に対する当初のような恐怖感も薄らいできているようで、ワクチン接種が進んできたことでもあります。半分あきらめ、我慢の日常からある程度はいいかなといったゆるみも感じられます。それでも感染しないこと、させないことは基本です。まだまだウィズコロナの社会は続き

そうです。そんな中でできることを少しずつ継続していくしかありません。

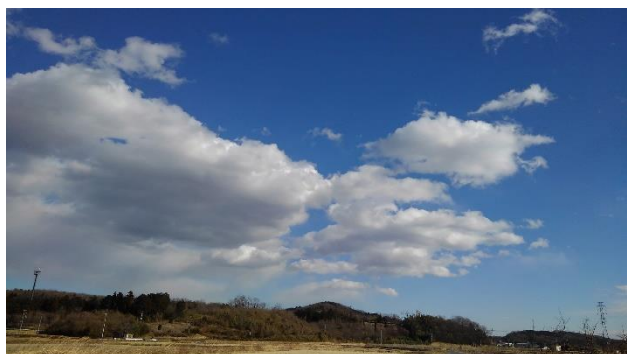


毎日新聞1月の朝刊に台湾のデジタル担当相「唐鳳(とうほう)」さん(オードリー・タン)のインタビュー記事が掲載されていました。若者のアイデアを生かすことで、台湾のデジタルインフラを整備し、政府と市民の双方向の交流を深める「デジタル民主主義」を大切にしている。入閣後の取り組みから、新型コロナ感染拡大時では内閣全体が、テレワークに移行したといえます。日本ではまだ考えられないことですが、マイナンバーカードのような健康保険カードの普及で様々なメリットが展開されたといえます。日本では、個人情報保護の観点からデジタル化はなかなか進んでいませんが、市民が信頼できるシステムの確立が不可欠です。世界は明確に変化しています。生まれた時からデジタル情報の中で成長し

ている若者たちの発想は大きく変わっていると感じます。メタバースといった新しい表現がなされる仮想空間の中で十分楽しめる世代が成長しているのです。仮想空間が現実逃避とならないためにも、私たちは生きる原点をしっかりと認識し、どんな社会で生きていきたいのか、その理念は忘れないで常に確認しながら取り組んでいきたいと思ひます。

スマホの有効活用

今やこのデジタル化にほとんど無縁といえる生活者と常に最新方向を向いている人たちと大きな差異が生じていると感じます。社会全体でも、省エネの叫ばれる中、ペーパーレス、キャッシュレスなどへ大きな転換をしています。私たちは、この急激な変化に時間をかけた学習などすることなく巻き込まれています。これらは、そういった環境にない人、高齢者にとっては大きな不安材料となっています。今年度は、まずは身近なところのスマホからその多様な機能、便利であるがゆえの落とし穴、SNSの活用など状況を見ながらですが、基本的なところから学ぶ学習会を企画していきます。



ウクライナ侵攻から学ぶこと



平和ボケしてられない！！

2月に始まったロシアのウクライナ侵攻に世界中の人たちが驚愕しています。21世紀になってもまだこんなことが起こり得るのかと呆然となります。リアルタイムで入ってくる戦火の映像に現実を突きつけられ、素朴にこんな惨状をなぜロシアの国民は許しておけるの？と感じます。日本に在住するロシア人の女性が、TV局の取材に応じて「ロシアはすぐにでもこの侵攻を辞めるべき」と言っていました。が、自分の発言が遠くロシアにいる家族、友人たちに危険が及ぶことを恐れて、身を隠しての発言しかできない。むしろ自分自身も身の危険を感じているといいます。遠く離れた異国の地での発言すら危険となるロシア社会の恐怖を思い知らされます。もの言えぬ社会がもたらす、恐怖政治を作り上げたのは、結果政治に関心でいた国民が招いたこととも話していました。この流れは、国家の中で実に巧妙に情報戦略の中で導かれていったことは言うまでもありません。でも、待てよ、これはどこの国でも起こっていること。決してロシア1国のことではないと思ひます。強力な独裁者を作り出す土壌はどこにでもあるのでは。

今こそ市民政治を！

ここまで来て、やっと日本国憲法の3つの基本原

則につながりました。「国民主権」、戦争を放棄する「平和主義」、国民一人ひとりの生きる尊厳を保障する「基本的人権の尊重」は、日本国憲法の三つの基本原則です。

この大きな柱が揺らいだ国家は一人の強力な権力者を生み出し、簡単に他国へ侵略し、勝利のためには人の命など簡単に奪ってしまう。誰のための闘いなのか。正義などない。

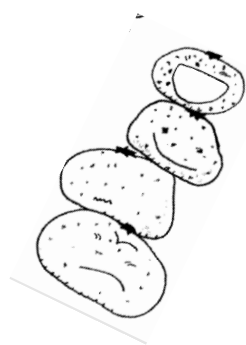
私は改めて日本国憲法が世界に誇れる偉大な憲法だと痛感します。けれど理想としての旗を掲げるだけでは何の意味もありません。生活者が、国民が政治を常に意識すること、権力の暴走を制止するだけの力を持つことが何より大切です。平和ボケの日本が、知らぬ間に紛争の解決策として戦争もやむなしといった選択を簡単にさせないためにも市民政治をもっともっと強くしていかなければと思いを新たにします。ロシアのウクライナ侵攻、中国、北朝鮮の脅威から日本の軍備を増強するだけでなく、交戦できる方向へと世論も変わりつつあります。其の前にできること、やらなければならないことを置き去りにしての安易な結論は危険です。面倒くさい民主主義、時間がかかる、目に見えて動かない。結果がすぐに見えないからと諦め、人任せにする、結果は歴史が証明しています。諦めない戦いは、この先もずっと続けていかなければ。



大島さ～ん あいがとー！



まちネット寄居の活動支援として、7年もの間木曜野菜市に平飼い自然卵をご寄付して下さった鷹巣の大島さんが、この春卵農家を卒業されました。生き物を飼う仕事は、想像以上に大変なこと。そんな価値ある卵を快く毎週野菜市に運んでくれました。その支援にどれほど励まされたかしれません。これからは、家庭菜園に精を出すと話されていました。レモンイエローの黄身がさわやかで、たくさんのファンがいました。本当にありがとうございました。ただただ感謝あるのみです！！



バランスが崩れてしまうと取り返しがつかなくなってしまうよ～。

ネット会員募集

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることなど皆で話すことからスタートです。私発が原点です。安心して暮らせる地域を私たちの手で。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ：大北（080-5933-7154）

※ショートメールでもOKです。

町長選に寄せて

7月31日投開票で寄居町長選挙が行われます。ご存じのように現花輪町長は引退表明をされました。現在、新人で現在寄居町議会議長の峰岸克明氏が立候補を表明しています。4月末現在まだほかの立候補者の名前は聞こえてきません。このままいくと無投票になる恐れもあります。前回に続き連続の無投票は避けたいもの。あと3か月の間どのような動きが出るのか注視したいと思います。



2023年は統一 地方選挙

市民政治を広げるチャンス

一番身近な、県議会、市町村議会の選挙です、私たち「まちネット寄居」が所属している「埼玉県市民ネットワーク」には、現在7人の代理人(県議 1人、市議 6人)がいます。私たちの仲間です。

もう少し詳しく見てみると、

- ・越谷ネット 辻浩司さん 2015年から越谷市議を3期、2019年から埼玉県議に初当選
山田裕子さん 2期目
清水泉さん 1期目
大田ちひろさん 昨年の補欠選挙で当選
- ・鶴ヶ島ネット 大野洋子さん 3期目
- ・はにゅうネット 齋藤万起子さん 1期目
- ・よしかわネット 岩田京子さん 2期目

若い方が多く、1981年、1982年生まれの方もいます。子育て真っ最中の世代で学校や職場での友人、知人を通じて多くの方と、問題を共有し活動中です。代理人になったきっかけは、夫が難病になり「ささえあいのまちづくり」の必要性を感じ立候補した方や、3.11後に、学校での被ばく対策について市議会への請願をネットがバックアップしたことから等、生活は政治、わたくし発、という日々の暮らしの中の問題に突き動かされて代理人になられたのだなあと感じました。(KY)



編集後記

夫の病院に付き合っ待つこと3時間。この貴重な時間に久々に生活クラブの機関紙「生活と自治」をじっくりと読む。といっても気になった記事だけなのだが。このところの煩雑な日常生活で思考が止まっていたせいか、はっと気づかされることが多かった。特集の「利他の時代」と協同組合 共同の領域を広げる(中島岳志さん、伊藤由理子さん対談)は重〜い気持ちから立ち直るヒントをもらった。まだまだ打つ手あり。まずは身近な地域から私の生活の場で人が集まれる空間を作ること。コロナ禍の中、必要以上に?自粛、諦め感に居直っていた。楽な方へと流されていたのでは…。深刻に考えすぎずに気楽な気持ちで声掛けして人と話そう。少し心が軽くなってきた。

桜の季節があっという間に終わり。花見気分にはなれなかったが、それでも今年も孫たちと桜の定点撮影に出かけた。5年前の映像を見るとその成長に目を見張る。これからの社会を生き抜く力を身に着けてほしいと願うばかり。

